

〔TPN水和剤〕

農林水産省登録 第21759号
性 状：類白色水和性粘稠懸濁液体
毒 性：普通物
危 険 物：－
有効年限：5 年
包 装：250 ml×40、500 ml×20

STダコニール 1000

有効成分：TPN40.0%

殺菌剤分類 M5

ダコニールは㈱エス・ディー・エス バイオテックの登録商標



農薬ガイドの適用表内(＊)および各項目については、i-農力サイトの「製品情報」や「農薬ガイドを見る」から、「農薬ガイドの見方」をご参照ください。
本剤の最新情報：こちらの2次元バーコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報をご覧になれます。

〔適用と使用法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法		
りんご	斑点落葉病 モニリア病・黒星病	1000 倍	200～700 ℓ	45 日前	3 回	散布		
なし	黒斑病・黒星病			前日	6 回			
もも	灰星病・黒星病				2 回			
ネクタリン	疫病・黒葉枯病・黒かび病 さび病	2000 倍		60 日前	7 回		散布	
いちじく	果実軟腐病	500～1000 倍						
キウイフルーツ	すす斑病	500 倍						
マルメロ	ごま色斑点病	1000 倍		30 日前	4 回			散布
かりん	黒点病・ごま色斑点病 白かび斑点病		45 日前	3 回				
パッション フルーツ	円斑病・疫病		14 日前					
ばれいしょ	疫病	500～1000 倍	100～300 ℓ	7 日前	5 回	無人航空 機による 散布		
	夏疫病	1000 倍					1.6 ℓ	
	疫病	8 倍						
	夏疫病	16 倍					3.2 ℓ	
やまのいも	炭疽病・葉渋病	1000 倍	100～300 ℓ	30 日前	6 回	散布		
やまのいも (むかご)	つる枯病			45 日前				
らっかせい	褐斑病	500 倍		14 日前	4 回			
きゅうり	べと病・炭疽病 うどんこ病・灰色かび病 黒星病・褐斑病	1000 倍		前日	本 剤：12 回 TPN：14 回 (#1)			
にがうり	炭疽病・うどんこ病 べと病・斑点病・つる枯病				4 回			
すいか	炭疽病	700 倍		3 日前	5 回			
	つる枯病	700～1000 倍						

色掛けは2024年6月26日適用拡大
(総使用回数の変更は「なし」に適用)

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
メロン	うどんこ病	700 倍	100～300 ℓ	3 日前	5 回	散布
	べと病	700～1000 倍				
	つる枯病	1000 倍				
かぼちゃ	べと病・白斑病・うどんこ病			7 日前	3 回	
トマト	疫病・輪紋病・葉かび病 炭疽病・灰色かび病 すすかび病・うどんこ病			前日	本 剤：4 回 T P N：6 回 (#2)	
ミニトマト	褐色輪紋病・斑点病				2 回	
なす	黒枯病・灰色かび病 すすかび病・うどんこ病				4 回	
キャベツ	べと病・根朽病			14 日前	本 剤：2 回 T P N：3 回 (#3)	
はくさい	白斑病・べと病 黒斑病・白さび病			7 日前	本 剤：2 回 T P N：3 回 (#4)	
非結球はくさい	白斑病			28 日前	2 回	
だいこん	白さび病・ワッカ症 白斑病・炭疽病			45 日前	3 回	
なばな類 (なばなを除く)	白さび病・べと病			60 日前		
なばな	白斑病・黒斑病			出蕾前但し 21 日前		
たまねぎ	べと病・灰色かび病・白色疫病			7 日前	6 回	
ねぎ	黒斑病・べと病 小菌核腐敗病・葉枯病 さび病			14 日前	本 剤：3 回 T P N：4 回 (#8)	
わけぎ					本 剤：2 回 T P N：3 回 (土壌灌注は 1 回、 散布は 2 回)	
らっきょう	灰色かび病				3 回	
にんじん	黒葉枯病		8 倍	1.6 ℓ	7 日前	本 剤：5 回 T P N：5 回 (#5)
		16 倍	3.2 ℓ			
セルリー	斑点病・萎縮炭疽病	1000 倍	100～300 ℓ	21 日前	2 回	散布
ブロッコリー	べと病			出蕾前但し 21 日前	本 剤：2 回 T P N：3 回 (#6)	
カリフラワー				出蕾前但し 14 日前	3 回	
レタス	灰色かび病			14 日前	本 剤：3 回 T P N：5 回 (#9)	
非結球レタス	すそ枯病・べと病			21 日前	2 回	

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用流量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
みつば	べと病	1000 倍	100～300 ℓ	根株養成期 但し、 75 日前	3 回	散布
アスパラガス	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病		100～400 ℓ	前日	4 回	
オクラ	葉すす病		100～300 ℓ			
しょうが	白星病	16 倍	3.2 ℓ	14 日前	5 回	無人航空 機による 散布
	紋枯病 白星病	1000 倍	100～300 ℓ		☆ 1	4 回
みょうが (花穂)	葉枯病・紋枯病					
みょうが (茎葉)						
にんにく	葉枯病・黄斑病 白斑葉枯病・さび病			7 日前	6 回	
ゆうがお	炭疽病・べと病 うどんこ病			前日	5 回	
うり類 (漬物用、ただ し、ゆうがお を除く)	炭疽病・うどんこ病 べと病・つる枯病				4 回	
てんさい	褐斑病			30 日前	3 回	
うど	黒斑病			根株養成期 但し、 200 日前	本 剤：3 回 T P N：4 回 (#7)	
ふき	灰色かび病			21 日前	2 回	
あしたば	黒枯病			30 日前	3 回	
食用ぎく	褐斑病				4 回	
食用ゆり	葉枯病			14 日前	6 回	
ピーマン	斑点病・うどんこ病・黒枯病 炭疽病			前日	3 回	
しそ	斑点病 (株枯症)				150 ℓ	4 回
茶	炭疽病・もち病・輪斑病	700～1000 倍	200～400 ℓ	摘採 10 日前 まで	1 回	散布
	網もち病・褐色円星病	1000 倍				
	新梢枯死症 (輪斑病菌による)	700～1000 倍				
	黒葉腐病・灰色かび病	700 倍				
みしまさいこ	炭疽病	800 倍	100～300 ℓ	30 日前	3 回	
パパイア	うどんこ病	1000 倍	200～700 ℓ	前日	5 回	
ズッキーニ					3 回	
ごぼう	5 回					
もりあざみ	ステムフィリウム葉枯症			30 日前	3 回	
せんぶり	さび病			7 日前	12 回 (1 年間に 6 回)	
しゃくやく (薬用)	うどんこ病			45 日前	15 回 (1 年間に 3 回)	

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用流量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
たばこ	うどんこ病	700～1000倍	25～150ℓ	10日前	2回	散布
ばら	黒星病・斑点病・うどんこ病	1000倍	100～300ℓ	発病前 ～ 発病初期	6回	
きく	黒斑病・褐斑病・白さび病 斑点病・うどんこ病					
チューリップ	褐色斑点病	10～30倍	3ℓ			発病前 ～ 発病初期
ゆり	葉枯病・斑点病	1000倍	100～300ℓ	散布		
りんどう	葉枯病・褐斑病					
花き類・ 観葉植物 (ばら、きく、 チューリップ、 ゆり、りんどう を除く)	斑点病・うどんこ病					
しきみ	炭疽病		200～700ℓ			
つつじ類	褐斑病					
西洋芝 (ベントグラス)	ヘルミントスポリウム葉枯病 葉腐病(ブラウンパッチ)	500～750倍	1ℓ/㎡	発病初期	8回	
西洋芝 (パーミュ ダグラス)						

- #1：土壌灌注は2回、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計12回
#2：土壌灌注は2回、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回
#3：は種又は定植前の土壌混和は1回、散布、無人航空機散布及びエアゾル剤の噴射は合計2回
#4：は種又は定植前の土壌混和は1回、散布及び無人航空機散布は合計2回
#5：種子への吹き付け処理は1回
#6：土壌灌注は1回、散布及び無人航空機散布は合計2回
#7：散布は3回、根株瞬間浸漬は1回
#8：土壌灌注は1回、散布及び無人航空機散布は合計3回
#9：土壌灌注は2回、散布及び無人航空機散布は合計3回
☆1：みょうが(花穂)の14日前但し花穂を収穫しない場合は開花期終了まで

●土壌灌注として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用流量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾプス菌)	500～1000倍	育苗箱** 1箱当り500ml	は種時から 緑化期 但し、は種 14日後まで	2回	土壌灌注
		1000～2000倍	育苗箱** 1箱当り1ℓ			
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	3ℓ/㎡	は種時又は 活着後 但し定植 14日後まで	本剤：2回 TPN：14回 (#1)	
トマト	苗立枯病 (リゾクトニア菌)			は種時又は 活着後 但し定植 14日後まで	本剤：2回 TPN：6回 (#3)	
みずな	立枯病			は種時	1回	

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500 倍	0.5 ℓ /㎡	出芽揃い 後 (出芽 3日後～ 10日後 まで)	本 剤：1 回 T P N：4 回 (#4)	土壌灌注
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱ま たはペーパー ポット 1 冊 (30 × 60 cm、使用 土壌約 5 ℓ) 当たり 0.5 ℓ	出芽揃い 後 (出芽 3日後～ 10日後 まで)	本 剤：1 回 T P N：4 回 (#4)	
わけぎ			0.5 ℓ /㎡		本 剤：1 回 T P N：3 回 (土壌灌注 は 1 回、 散布は 2 回)	
ブロッコリー	根こぶ病	1000 倍	3 ℓ /㎡	定植時	本 剤：1 回 T P N：3 回 (#2)	
レタス	ビッグベイン病		1.5～3 ℓ /㎡	42 日前	本 剤：2 回 T P N：5 回 (#5)	

育苗箱**：30×60×3 cm、使用土壌約 5 ℓ

- #1：土壌灌注は 2 回、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計 12 回
#2：土壌灌注は 1 回、散布及び無人航空機散布は合計 2 回
#3：土壌灌注は 2 回、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計 4 回
#4：土壌灌注は 1 回、散布及び無人航空機散布は合計 3 回
#5：土壌灌注は 2 回、散布及び無人航空機散布は合計 3 回

●種子消毒として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
にんじん	黒葉枯病	12 倍	乾燥種子 1 kg 当り 60ml	は種前	本 剤：1 回 T P N：5 回 (種子への吹 き付け処理は 1 回)	吹き付け処理 (種子消毒機 使用)

●常温煙霧として使う場合

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
きゅうり	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	べと病	33 倍	10 ℓ	前日	本 剤：12 回 T P N：14 回 (#1)	常温煙霧
ト マ ト		すすかび病 葉かび病 褐色輪紋病 うどんこ病				本 剤：4 回 T P N：6 回 (#2)	
ピーマン	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	うどんこ病	50 倍	10 ℓ	前日	3 回	常温煙霧
な す			33 倍			4 回	
アスパラガス		斑点病 褐斑病	40 倍				

- #1: 土壌灌注は2回、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計12回
#2: 土壌灌注は2回、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 使用直前に、容器をよく振る。
- 石灰硫黄合剤との混用はさける。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守る。
 - 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施する。
 - 散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用する。
 - 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行う。
 - 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車の塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意する。
 - 散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄する。
- ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加える。
- 稲（箱育苗）に使用する場合、次の事項に注意する。
 - 緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意する。
 - 育苗箱から希釈液が漏出しないように注意する。
- りんごに使用する場合、次の事項に注意する。
 - ゴールデンの後代品種（つがる、世界一、ジョナゴールド等）には、葉に薬害を生じるので使用しない。
 - 本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花後20日間は散布しない。
- なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には葉に薬害を生じるので使用しない。また、二十世紀であっても7月以前に使用すると葉に薬害を生じるので7月以降に使用する。
- 有袋栽培のものに使用する場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがあるのでさける。
- いちじくに使用する場合、果実に薬害が生じるおそれがあるので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさける。
- ねぎ及びわけぎに土壌灌注として使う場合、は種時から出芽直後の処理においては生育抑制のおそれがあるため注意する。
- レタスに使用する場合、生育遅延のおそれがあるので高温期の灌注はさける。
- しそに使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、葉にかからないように株元に散布する。
- 常温煙霧として使用する場合は、次の事項に注意する。
 - 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
 - 煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど、煙霧が作物体に直接当たらないようにする。
 - 作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉する。
- 花き類・観葉植物に使用する場合、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさける。また、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、収穫間際の散布はさける。ただし、球根生産（チューリップ）の場合は、問題なく使用できる。
- みずかけな（水掛菜）、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用する。また、使用后14日間は入水しない。

- 芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に葉害（黄変または褐変）を生じることがあるので注意する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



安全使用上の注意



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 誤飲などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意する。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らない。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。
- 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。
- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

「[農業ガイドの見方](https://www.i-nouryoku.com/prod/search/) (<https://www.i-nouryoku.com/prod/search/> 農業ガイドの見方 .pdf)」の「3. 注意事項：(1)、(2)、(3)、(4)－G」も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

- 広範囲の病害に有効です。
- 発売以来耐性菌が問題になった事例は確認されていません。
- 薬液調製が容易です：水中分散性・懸濁性にすぐれていますので、所定量を水中に入れ攪拌すれば速やかに安定した散布液が出来ます。